

2019年度

自己点検・評価

ホツマ インターナショナル スクール 大阪校

実施日：2020年7月21日

実施責任者：岩本宏明

実施担当者：深田菜生，澤田有里

※ 各点検・評価項目は中項目、更には小項目に分け、各項目ごとに次のように評価を分類して、本資料においては小項目ごとの評価は中項目にまとめて示した。

- A 達成されている。
- B ほぼ達成されているが、不十分なところがあり改善に取り組んでいる。
- C 達成に向けて努力している。
- D 達成されていない／必要性に気づいていなかった。
- X 該当しない。

第1 設置者及びマネジメント

1 理念・教育目標

1-1 理念と教育目標

評価点

1-1-1 <理念>

本校の教育は、日本語教育だけでなく、日本の文化や生活習慣についての教育を実践するに当たり、日本の伝統文化に根ざして、生のふれあいを大切にされた親身な教育活動をモットーとする。

1-1-2 <教育目標>

日本語教育だけでなく、日本文化や生活習慣についての教育を実践し、学生たちが自国の発展に寄与するだけでなく、大阪の魅力を世界に発信し、大阪府の国際化に貢献することを大きな目標とし、日本の高等教育機関への進学を個々の学生の当面の目標に掲げるものとする。

ホツ
マ

1-1-3 理念と教育目標が教職員、学生に周知されている。

1. 理念・教育目標

総合評価 **B**

理念や教育目標については、その達成に向けて努力しているが、十分に実践できているとは言えない。その周知や達成方法について改善の余地があり、検討を要する。

2 組織

2-1

組織態勢

2-1-1 設置者、設置代表者及び経営担当役員は、「日本語教育機関の告示基準」で定められた要件に適合している。

2-1-2 事業規模に応じた組織態勢になっている。

2-1-3 受け入れようとする学生の言語への対応策が講じられている。

2-1 組織態勢

評価

B

2-2

教員組織

2-2-1 校長、主任教員及び教員は、「日本語教育機関の告示基準」で定める要件を備えている。

2-2-2 校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限が明確に定められている。

2-2-3 教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質が明示されている。

2-2 教員組織

評価

B

2-3 事務組織

2-3-1 生活指導責任者及び入管事務担当者が特定され、その職務内容及び責任と権限が明確に定められている。担当者が複数名の場合は、責任者が特定され、それぞれの責任と権限が明確化されている。

2-3-2 生活指導責任者及び入管事務担当者が学生及び教職員に周知されている。

2-3-3 入国管理局により認められた申請等取次者を配置している。

2-3 事務組織

評価 **B**

2-4 採用と育成

2-4-1 教員及び職員の採用方法及び雇用条件が明文化されている。

2-4-2 教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取組をしている。

2-4-3 教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止等に関する研修を行っている。

2-4-4 教員及び職員の評価を適切に行っている。

2-4 採用と育成

評価 **B**

2. 組織

総合評価 **B**

多国籍の学生の受入れに対して、言語対応策としては、在校生の活用による学生間の交流基盤の造成で対応している。今後は、より体系的な方法も検討すべき点だ。
各専任教職員の職務内容については明確に定められておらず、対処が必要な問題の内容に応じてその都度変わることが多いのも現状である。職務内容、教育目標等に応じた理解、育成をして、改善していくことが望まれる。
生活指導担当、入管事務担当は、教員が兼務で複数人おり、手分けして対応している。
職員の評価に関しては基準を明確化した。実践の中で、またより良い方法を導入していくような形をとっていきたい。

3 財務

3-1 財務状況

3-1 財務状況は、中長期的に安定している。

3-2 予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。

3. 財務

総合評価 **C**

財務状況については一部担当職員のみ知る機会があるため総合評価は低くなっているが、学生数は期ごとに安定しており、学校としての大きな出費もないので、少なくとも当該年度は安定していたと言える。

4 教育環境

4-1 校地、校舎

- 4-1-1 教育機関として適切な位置環境にある。
- 4-1-2 安定的に教育活動を継続するための校地及び校舎が整備されている。
- 4-1-3 校舎面積は、「日本語教育機関の告示基準」に適合している。

4-1 校地、校舎 評価

B

4-2 施設、設備

- 4-2-1 教室、その他の施設は、「日本語教育機関の告示基準」に適合している。
- 4-2-2 教室内は、十分な照度があり、換気がなされている。
- 4-2-3 すべての教室は、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されている。
- 4-2-4 授業時間外に自習できる部屋が確保されている。
- 4-2-5 教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備され、常時利用可能である。
- 4-2-6 視聴覚教材やITを利用した授業が可能な設備や教育用機器が整備されている。
- 4-2-7 教員及び職員の執務に必要なスペースが確保されている。
- 4-2-8 同時に授業を受ける学生数に応じたトイレが設置されている。
- 4-2-9 法令上必要な設備等が備えられている。
- 4-2-10 廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状である。

4-2 施設、設備 評価

B

4. 教育環境

総合評価 **B**

総合評価は悪くないが、その質・内容については決して十分とはいえないので、徐々に改善を試みたい。

5 安全・危機管理

5-1 健康・衛生

- 5-1-1 健康、衛生面について指導する態勢を整えている。
- 5-1-2 対象となる学生全員が国民健康保険に加入し、併せて、傷害保険にも加入している。
- 5-1-3 重篤な疾病や傷害のあった場合の対応を定めている。
- 5-1-4 感染症発生時の措置を定めている。

5-1 健康・衛生

評価 **B**

5-2 危機管理

- 5-2-1 危機管理態勢が整備されている。
- 5-2-2 火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定めている。
- 5-2-3 気象警報が発令された場合の措置を定めている。
- 5-2-4 災害等に対する避難訓練を定期的実施している。
- 5-2-5 防災用品が備蓄されている。

5-2 危機管理

評価 **C**

5. 安全・危機管理

総合評価 **B**

年度末にコロナウイルスが流行し、そこから感染症に対する対応策を随時画策し決定してきた。事例別にある程度のマニュアル化をして共有するようしていくことが望まれる。

6 法令の遵守等

6-1 法令の遵守

- 6-1-1 法令遵守に関する担当者を特定している。
- 6-1-2 教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っている。
- 6-1-3 個人情報保護のための対策がとられている。
- 6-1-4 入国管理局、関係官庁等への届出、報告を遅滞なく行っている。

6. 法令の遵守

総合評価 **C**

入国管理局、関係官庁への報告等について、昨年度は遅れることがしばしばあったが、本年度については遅れはなくなった。ただし、法令の遵守についての意識がそれぞれの職員に根付いているとは言えず、今後の改善が望まれる。

第2 運営に関する事項

7 運営全般

7-1 組織的な運営

7-1-1 短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されている。

7-1-2 管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がなされている。

7-1-3 意志決定が組織的になされ、かつ、効率的に機能している。

7-1-4 予算編成が適切になされ、執行ルールが明確である。

インターナショナル スクール 大阪校

7-1-5 業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的、かつ、組織的に行われている。

7-1 組織的な運営

評価 **B**

7-2 納付金

7-2-1 入学検定料、入学金、授業料及びその他納付金の金額及び納付時期が明示されている。

2019
7-2-2 学費以外に入学後必要になる費用が明示されている。

7-2-3 関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されている。

7-2 納付金

評価 **A**

7-3 情報の共有化及び発信

7-3-1 外部からの情報提供が効率的になされ、かつ、共有化する仕組みがある。

7-3-2 内部からの情報発信が効率的に行われている。

7-3-3 入学希望者・学習者及びその利害関係者（経費支弁者等）の理解できる言語で直接乃至は間接的に情報提供を行っている。

7-3 情報の共有化及び発信

評価 **B**

7. 運営全般

総合評価 **B**

意志決定やその周知については、一般的な業務においては比較的共有がなされていると言える。
納付金やその返金については定められているが、周知・公開方法には検討すべき点がある。
情報の共有については昨年度の反省を活かし、優先事項として整備してきた。
本校のみならず、岐阜校・東京校・名古屋校との情報共有も積極的に行なっている。

8 学生募集

8-1 募集方針

8-1-1 理念・教育目標に沿った学生の受入方針を定め、年間募集計画を策定している。

8-1-2 募集定員を定めている。

8-1-3 機関に所属する職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行っている。

8-1 募集方針

評価

A

8-2 募集活動

8-2-1 教育内容、教育成果を含む最新、かつ、正確な学校情報が入学希望者の理解できる言語で開示されている。

8-2-2 求める学生像を明示している。

8-2-3 応募資格及び条件を入学希望者の理解できる言語で明示している。

8-2-4 募集活動を行う国・地域の法令を遵守した募集活動を行っている。

8-2-5 海外の募集代理人（エージェント等）に最新、かつ、正確な情報提供を行っている。

8-2-6 海外の募集代理人（エージェント等）の行う募集活動が適切に行われていることを把握している。

8-2 募集活動

評価

B

8-3 入学選考

8-3-1 入学選考基準及び方法が明確化されている。

8-3-2 学生情報を正確に把握し、及び提出書類により確認を行っている。

8-3-3 入学選考を行う態勢が整備されている。

8-3-4 受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認している。

8-3 入学選考

評価

B

8. 学生募集

総合評価 B

毎年、学生を募集する各国に教職員が赴き、現地で説明会を開く等して学校の方針を伝え、現地で直接、またはスカイプ等を使った面接を実施して学生を選抜している。現地の提携機関とも、当校の教職員が直接に現地の責任者に会って、信頼がおけると判断された所のみ提携契約をしており、当校側では適正な学生募集に努めている。

弊校の教育内容が年々変化していく中で、志願者の学習ニーズと必ずしも合致するかというところではない部分もあるが、学習者自身の声を傾聴しながら改善に向かいたい。

9 教育活動

9-1 企画

- 9-1-1 理念・教育目標に合致したコース設定が行われている。
- 9-1-2 教育目標達成に向けた教育内容、教育方法及び進度設計がなされている。
- 9-1-3 教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている。
- 9-1-4 カリキュラムは、体系的に編成されている。
- 9-1-5 教育目標に合致した教材が選定されている。
- 9-1-6 補助教材、生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意している。
- 9-1-7 授業に関する学習リソース及び情報を、授業開始までに教員に提供している。
- 9-1-8 教員配置が適切になされている。

9-1 企画

評価

B

9-2 実施

- 9-2-1 授業開始までに学生の能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。
- 9-2-2 教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している。
- 9-2-3 開示されたシラバスによって授業が行われている。
- 9-2-4 修了の要件が定められ、学生の理解できる言語によって明示されている。
- 9-2-5 教育内容に応じて教育用機器を活用している。
- 9-2-6 授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録している。
- 9-2-7 理解度・到達度の確認が実施期間中に適切に行われている。
- 9-2-8 学生の自己評価を把握している。

- 9-2-9 個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援が行われている。
- 9-2-10 特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けている。
- 9-2-11 授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処している。
- 9-2-12 学習内容、時間割と学年暦、成績判定の基準と方法、学習上の留意点、留学生活上の留意点、入管法上の留意点とこれらについての相談担当者名が記載された文書を、入学時に学生に配布している。

9-2 実施

評価

C

9-3

成績判定

- 9-3-1 判定基準及び判定方法が明確に定められ、開示されている。
- 9-3-2 成績判定結果を的確に学生に伝えている。
- 9-3-3 判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。

9-3 成績判定

評価

B

9-4

授業評価

- 9-4-1 授業評価を定期的実施している。
- 9-4-2 評価態勢、評価方法及び評価基準が適切である。
- 9-4-3 学生による授業評価を定期的実施している。
- 9-4-4 評価結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されている。

9-4 授業評価

評価

C

9. 教育活動

総合評価

B

授業準備については昨年度と比べだいぶ体系的になってきた。
 まだまだ改善の余地はあるので職員の準備負担を減らしていきたい。
 教育内容も少しずつ変えている段階で、ICTを利用した学習など新しい取り組みも行なっている。
 生徒による授業評価は、年度末に一度卒業予定者と在校生を対象に行なっており、
 よりよい学校運営を行うべく一つ一つ参考にしていく。

10 学生支援

10-1 支援態勢

10-1-1 学生支援計画を策定し、支援態勢が整備されている。

10-1-2 休日及び長期休暇中の学生対応ができています。

10-1 支援態勢

評価 **B**

10-2 日本社会を理解し、適応するための支援

10-2-1 入学直後のオリエンテーションを実施している。

10-2-2 生活に関するオリエンテーションを実施している。

10-2-3 地域交流や地域活動の機会への参加を積極的に促している。

10-2 日本社会を理解し、適応するための支援

評価 **A**

10-3 生活面における支援

10-3-1 住居支援を行っている。

10-3-2 アルバイトに関する指導及び支援を行っている。

10-3-3 交通事故等の相談態勢が整備されている。

10-3-4 定期的に健康診断を実施している。

10-3-5 学生全体の生活状況について定期的に調査している。

10-3 生活面における支援

評価 **A**

10-4 進路に関する支援

10-4-1 進路指導担当者が特定されている。

10-4-2 学生の希望する進路を把握している。

10-4-3 進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にある。

10-4-4 入学時からの一貫した進路指導を行っている。

10-4 進路に関する支援

B

10-5 入国・在留関係に関する指導及び支援

10-5-1 担当者は、研修受講等により適切な情報取得を継続的に行っている。

10-5-2 入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っている。

10-5-3 在留に関する学生の最新情報を正確に把握している。

10-5-4 在留上、問題のある学生への個別指導を行っている。

10-5-5 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組を継続的に行っている。

10-5-6 過去3年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていない。

10-5 入国・在留関係に関する指導及び支援

B

10. 学生支援

総合評価 **B**

計画性をもった支援ではないが、緊急の支援が必要な態勢は取っており、生活面における日本社会への適応指導は徹底的に行っている。個々の生活状況の把握については、職員が学生と定期的に面談を行うことで把握できるよう努めている。進路指導に関しても、この面談と併せて行なっている。

在留関係の指導及び支援については、学生本人の意識によるところがある。現実の厳しさを伝えることができるよう、指導方法を改善していきたい。

11 教育成果

11-1 成果の判定

11-1-1 進級及び卒業判定が適切に行われている。

11-1-2 日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している。

11-1 成果の判定

A

11-2 卒業生の状況の把握

11-2-1 卒業生の状況を把握するための取組を行っている。

11-2-2 卒業後の進路を把握している。

11-2-3 進学先、就職先等での状況や卒業生の社会的評価を把握に努めている。

11-2 卒業生の状況の把握

B

11. 教育成果

総合評価 B

教育成果の把握はほぼ適切に行われているが、卒業生の卒業直後の進路以降の把握は学校として把握しきれていない。確実にその後の状況や社会的評価を把握できる方策があれば検討したい。